

みんなの「なんな一?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)

# 信毎こども記者ニュース



発行/連絡先

こども記者クラブ(信濃毎日新聞) 〒380-8546 長野市南県町657  
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp



no.86



↑川上仁一先生(左)から教って、アイマスクをして暗闇の中を忍び足で歩く練習をしました

## 取材教室

# 忍者入門!



戦国時代や江戸時代に活やくした日本の忍者は、今では映画やアニメになって世界的に知られています。信毎こども記者クラブは2月18日、長野市の信濃毎日新聞本社で取材教室「忍者入門!」を開きました。子どもの時から修行して甲賀流忍術を受け継いだ川上仁一さん(67) Ⅱ福井県若狭町Ⅱと、忍者の研究をしている三重大学(三重県)教授の山田雄司さん(49)に、忍者の心と技を教わりました。

ぼくは、にんじゃはたたかう人だともっていましたが、でも、川上先生が「にんじゃはできるだけたたかわない」といっていたので、びっくりしました。



塚田壮祐記者  
伊那市1年

(忍者が精神統一をするときに)「りん・ぴょう・とう・しゃ・かい・じん・れつ・ざい・ぜん」と、となえながらする手のかたちがおずかしかったです。えんまくのじっけんでは、かやくにひをつけたら、白いけむりがでてきてすごかったです。にんじゃはわるいことをしないかっこいい人でした。ぼくも、にんじゃになってみたいです。



↑忍者が精神統一に使った「九字護身法」を教わったよ



九字護身法は、1文字ごとに形を変えて両手を組み合わせ、九つの文字を唱えます。 ※ほかの漢字や読みを使うことがあります。

川上先生と山田先生からにんじゃについていろいろなことを教えてもらいました。さな田丸に出てきた「さすけ」と、火やくをつかうところがにっていました。



草間希泉記者  
松本市2年

外で火やくに火をつけるじっけんをしました。白いけむりが出ました。にんじゃは、けむりが出ている間に、てきからにげるそうです。五色米の暗号も教えてもらいました。おずかしかったけど、楽しかったです。つぎの日、パパときょうだいの名前をあんごうで書いてみました。

川上先生が「さい後のにんじゃ」だと聞きました。わたしは川上先生のつぎのにんじゃになりたいと思いました。

忍術の修行をしてきた川上先生にお話を聞きました。川上さんは6歳の時に、忍者の修行をしてきた人に出会って、遊んでいるような感じで修行を始めたそうです。木に登って飛び降りたりもしました。



駒木希美記者  
長野市6年

私は、忍者は手裏剣などを使う「悪い人」と思っていました。できるだけ人を傷つけないで、戦わずににげることを優先したそうです。自分や家族のことを大切にすることが忍者だとも聞いてびっくりしました。これまで、かんちがいをしてたんだなあ、忍者は「いい人」なんだなあと思いました。